

Bookstart Newsletter



2023
夏
No.81

ブックスタート・ニュースレター



兵庫県神戸市長田区

特集

温もりと人情味のある「官民・官学協働」

～ 多文化共生社会・神戸市長田区の取り組みから ～

1868年の開港以来、多くの外国人が居住し、多様な文化が交じり合いながら発展してきた兵庫県神戸市。なかでも長田区は、韓国・朝鮮をはじめ、ベトナム、中国、フィリピンなどアジアを中心に外国籍の人が多く、「多文化共生」が日常にある地域です。そんな長田区の人たちに区の魅力を問うと、「下町らしい人間関係があること」という答えが返ってくるといいます。

「子連れで銭湯に行ったら、「ゆっくり入っておいで」と、他の人が子どもを見ていてくれた。」

「商店街のお店を利用したら、「食べ盛りやろ」と、たくさんサービスしてくれた。」

いずれも、あたたかな地域社会は「制度」ではなく、「人」が作っていることを感じるエピソードです。

長田区では2021年度、コロナ禍でブックスタート事業を開始。行政と市民、社会福祉協議会、さらには大学と連携しながら、4か月児健診の一項目として実施しています。

今回は人情味あふれる下町、神戸市長田区の事例をもとに、ブックスタートにおける「官民・官学協働」について考えます。

ケーススタディ
兵庫県神戸市長田区

2021年4月から、保健福祉課を事務局に、4か月児健診でブックスタート事業を開始。主任児童委員、子育てボランティア（区民）とベトナム語の通訳（社会福祉協議会）が健診全体をサポートしています。ブックスタートでの読みきかせは、新長田図書館の司書と神戸常盤大学の職員が担当。健診の最後に、保健師が絵本を手渡します。

言葉と心を支える
ベトナム語の通訳

取材当日は、社会福祉協議会で地域共生コーディネーターを務めるファン・バン・ティさんが、ベトナム語の通訳を担当。ティさん自身も、4歳のお子さんのお父さんです。今はベトナムと日本で離れて暮らしていることもあり、赤ちゃんへの思いはひとしおです。それに応えるかのように、赤ちゃんは小さな手でティさんの指をぎゅっつつかんでいました。

ベトナムでは子どもと絵本を読むこ

とが、まだ一般的でないといいますが、保健師からの「気負わずに楽しんでくださいね」という言葉を、思いとともに親子に伝えています。



健診は「えほんのおへや」からスタート。読みきかせをみんなで楽しみます



被災経験のある地域の大学として

長田区唯一の大学である神戸常盤大学は、2008年に区と「包括的な連携協力に関する協定」を締結。医療・教育・福祉に強みをもつ大学の知見を活かしながら、子育て支援施設の運営などに取り組み、ブックスタートにも関わっています。現在は、社会連携課で多文化共生事業を担当し、司書の資格も有する職員が、毎回ブックスタートで絵本の読みきかせをしています。絵本とともに手渡す資料も、



やさしい眼差しで通訳をするティさん（右奥）
健診でもブックスタートの場面でも親子を支えます

保健福祉課・図書館・大学が連携して作成。手渡す絵本の選定なども、それぞれの立場から、自由に意見を出し合い決定しています。



絵本とともに手渡す資料。外国語の絵本についても、何語の本が区内のどの施設にあるかを案内しています

大学元来の使命である、教育・研究に加え、「社会貢献」に注力する背景にあるのは、1995年の阪神・淡路大震災での経験です。甚大な被害を受けた地域にある大学として、「もつと何かできたのでは」という強い反省の念があるといえます。「国家および地域社会の発展に寄与する」

VOICE



長田区保健福祉部保健福祉課 保健師

大川 明子 さん(写真左) 池田 敦子さん(写真右)

子育てに五感を使う気づきに

単に「どうぞ」と絵本を渡すのではなく、楽しい経験とともに届ける意義は大きいです。「ああ、こうやって子どもと関わればいいのね」とお母さんたちは気づきを得ると思います。赤ちゃんの声や体温、体の動きを感じながら絵本を楽しむ経験が、「五感」を使った子育てにつながれば嬉しいですね。

みんなで親子を応援

通訳のティさんは、目配り、気配りをしながらお母さんたちに声をかけてくれます。主任児童委員さんと子育てボランティアさんは、地域で親子向けのサロンなどもしている頼もしい存在です。そして、図書館や大学がもつ専門性は、絵本選びや資料の作成など、ブックスタート事業をする上で欠かせません。皆で力を出し合い、よりよい健診の場を提供していきたいです。

神戸常盤大学 法人本部 社会連携課
多文化共生関連事業担当

内橋 一恵 さん(写真中央)

多文化共生のまち、長田での 絵本の子育てを応援

2021年夏、新型コロナウイルスワクチンの職域接種に会場したベトナム人親子が『じゃあじゃあ びりびり』を手にしていました。もしや、ブックスタートで受け取った絵本ではないかと思い、声をかけたところ、その通りでした。「上の子の時には（ブックスタートが）なかったの、うれしい」と話してくださいました。どの家庭にも、絵本のひとときを通じて、あたたかな時間を届けていきたいです。

さらなる充実に向けて

という建学の精神と、「平時にできることしか有事（災害時）にはできない」という思いから、日頃から地域社会とのつながりを大切にしています。

事業開始当初は、保健師がそれぞれの親子に読みきかせをし、絵本を手渡していました。2023年1月からは、集団での読みきかせも開始。健診の最初に、おはなしを皆で一緒に

楽しむことで、親子の表情が和らぐようになりました。今後は、主任児童委員や子育てボランティア、ゆくゆくは学生にも、読み手として協力してもらえるよう検討中です。

また、1歳6か月児健診で絵本をプレゼントするセカンドブック事業も2023年度中に開始予定です。絵本のひとときを通じて、「地域全体で子育てを応援している」というメッセージを、これまで以上に丁寧に届けていこうと考えています。

おわりに

常日頃から、地域の人と人が声をかけあう関係性が大切にされている長田区。ブックスタート事業立ち上げの際も、所属や立場を越えてごっくばらんに話し合える関係性が生きていたといえます。

誰かの力になりたい——。そう願う人たちの思いが、それぞれの強みを活かした、官民・官学協働というかたちに表れているように感じました。



ニコニコ笑顔のお母さん

第2回いっしょにえほん写真コンテスト 2023

受賞作品決定！

share books(シェアブックス 絵本を介して誰かと一緒に楽しい時間を共有する)のひとときが、子どもたちのまわりにひろがることを願い、2023年4月～5月、昨年に引き続き SNS (Instagram / Twitter / Facebook) 上でコンテストを開催。子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真を一言エピソードとともに募集したところ、297点の応募がありました。

大賞



神奈川県
小林大我さん

お気に入りのTシャツを着て祖母に読み聞かせをせがんだのは落ちこぼれヒーローの奮闘を描いた一冊。何度も読み返した作品ですが、主人公のピンチには思わずこの表情。

大賞に輝いたのは、神奈川県小林大我さんの作品です。おばあちゃんに全身を委ねての、絵本のひととき。傍らに置かれた眼鏡ケースから、おばあちゃんが、孫にせがまれ、準備を整えたうえで、この時間を作り出したであろうことが想像されます。そんな物語が感じられる点も、選考の際に注目されました。

＼ たくさんのご応募ありがとうございました！ ＼



その他の受賞作品は、当 NPO のウェブサイトで開催中。選者からのコメントも是非ご覧ください！ <https://www.bookstart.or.jp/3604/> ▶



選者

(五十音順)

かさいまりさん
絵本作家 / 日本児童出版美術家連盟 理事長

ふわはねさん
読書アドバイザー / 絵本講師

三輪 丈太郎さん
子どもの本専門店店主

吉田 明世さん
アナウンサー / 絵本専門士 / 保育士

NPO ブックスタート事務局

コトコト ことのは

NPO ブックスタートのスタッフが出合った言葉

子どもはことばを覚えるのではなく、食べるのだ
『絵本・ことばのよろこび』(松居直、日本キリスト教団出版局)より

数々のロングセラー絵本を世に送り出した編集者、NPO ブックスタート初代理事長 松居直のことばです。自分に喜びをもたらしてくれる「おいしいことば」をたっぷり食べた子どもは、いつか無意識のうちに、そのことばを紡ぎだすのだと言います。我が家の1歳になった孫が、ふとした瞬間に「いないなーい」とお気に入りの絵本のことばを片言で楽しそうに話す姿を見ると、まさに！と実感します。ブックスタートでも子どもたちに「おいしいことば」を食べさせてあげたいですね。

お知らせ

ブックスタート ^{オンライン}
全国研修会 2023 開催！

日時：10月20日(金)
13:30～16:00

内容等、詳細はウェブサイト「お知らせ」をご覧ください▶

